

平成24事業年度

独立行政法人国際協力機構 有償資金協力勘定

業 務 報 告 書

自 平成24年4月1日

至 平成25年3月31日

独立行政法人国際協力機構

目 次

1. 国民の皆様へ	1
2. 基本情報	3
(1) 法人の概要	3
(2) 本部等の住所	5
(3) 資本金の状況	7
(4) 役員 の 状況	7
(5) 常勤職員 の 状況	9
3. 簡潔に要約された財務諸表	10
4. 財務情報	13
5. 事業の説明	16

独立行政法人国際協力機構 平成24事業年度業務報告書

1. 国民の皆様へ

平成24年度における当機構を巡る動き、活動実績及び課題等の概要について、以下のとおり報告します。

(1) 政府の重要政策への貢献

平成24年度は、第3期中期目標期間（平成24年度～28年度）の開始とともに新理事長を迎えて、「すべての人が恩恵を受ける、ダイナミックな開発」とのビジョンの下、「平和を構築する国際協力」、「市場が拡大する国際協力」、「知識を高める国際協力」、「友情の輪が広がる国際協力」を柱に「元気の出る国際協力」を展開し、政府の開発援助政策に基づいた効果的な事業の実施に取り組みました。

具体的には、官民連携によるインフラ関連産業の輸出や中小企業等の海外展開支援、民主化が進むミャンマーに対する協力の拡大、ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けた支援、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）で掲げた公約の実現、国際協力における防災の主流化、ミンダナオやアフガニスタンをはじめとする平和構築支援などに重点的に取り組みました。

(2) 国内の多様な関係者との連携の強化

平成24年度は特に、機構の国内拠点等を通じて、民間企業や地方自治体、大学、NGO等の地域の多様な関係者との連携の強化に努めながら、これらの関係者の海外展開にも資する協力を実現すべく、提案に基づき柔軟に事業を実施するための新たな制度の創設に迅速に取り組みました。

民間企業との連携については、外務省予算による中小企業等の海外展開のための委託事業の事務支援業務を受託したほか、平成24年度補正予算により平成25年度からの民間提案型普及・実証事業の実施が決定されたことを受け、迅速に制度設計を行い、公示を開始しました。また、中小企業連携促進調査（F/S支援）の試行的実施や、パブリック・プライベート・パートナーシップ（PPP）によるインフラ整備事業や貧困層に資するBOPビジネスなどを進めるための調査も行いました。さらに、平成22年度にパイロットアプローチの下で再開した海外投融资事業の本格再開が決定され、PPPインフラ事業に関する調査結果の初の事業化につなげました。

地方自治体との連携に関しては、平成24年度補正予算で創設された「地域経済活性化特別枠」を受け、開発途上国及び地方自治体双方のニーズにより柔軟に応えるための新制度を迅速に創設し、募集を開始しました。また、北九州市及び沖縄県と包括的連携協定を締結しました。東日本大震災の被災地域との連携にも取り組み、青年海外協力隊経験者等の地域復興推進員としての派遣を引き続き進めたほか、被災地域とアジア等の自然災害リスクを抱える地域との交流や知見の共有も支援しました。

大学との連携については、連携協定や覚書を締結している国内の25大学等が一堂に会する連携会議を開催し、「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）」等を通じた連携の推進に向けて意見交換を行いました。

NGOとの連携については、理事長自らNGO-JICA協議会に出席し、地域のNGOのニーズの把握と連携の強化に努めました。

(3) 国際社会におけるリーダーシップの発揮に向けた貢献

ミレニアム開発目標年（2015年）を目前に控え、新たな援助潮流の形成に向けた議論が活発化する中、48年ぶりの東京開催となったIMF・世界銀行総会や、「世界防災閣僚会議 in 東北」や「アフガニスタンに関する東京会合」等、数多くの国際会議が開催されました。機構は、これらの会合や関連イベント等への理事長等の登壇や、公式セミナー、サイドイベント等の開催を通じて、事業現場から得られた知見や研究成果等をもとに機構のビジョンや取組を積極的に発信しました。これらの会合に出席した国際機関や各国政府の代表や要人とのトップ面談や、国連本部や国際的な開発機関、研究機関等に出向いての協議も精力的に行い、これらの機関とのさらなる連携強化に努めました。また、国際開発援助の世界において存在感を増しているアジアやアラブの新興ドナーとの対話も促進しました。平成24年度にはさらに、理事長が国連開発計画（UNDP）の人間開発報告書のアドバイザー・パネルに日本から唯一のメンバーとして就任し、援助潮流の形成に向けた議論に貢献しました。

(4) より戦略的、効果的な事業の実施に向けた取組

円借款及び無償資金協力については、例年を上回る規模の事業を着実に実施するとともに、多様なニーズに柔軟に対応すべく、外貨返済型円借款の導入や災害復旧スタンド・バイ借款等の新商品の開発に向けた検討を進めました。無償資金協力については、代表的な分野の協力効果に関する標準指標例を整備しました。技術協力においても、民間連携ボランティアも含め、中小企業や地方自治体等の提案に基づいて実施する新制度を創設しました。

機構は、これらの援助手法を効果的に組み合わせることで開発課題の解決に取り組むべく、国毎に開発課題と効果的なアプローチを分析するJICA国別分析ペーパーの策定を進めるとともに、プログラム・アプローチの推進にも取り組みました。

また、事業構想力を強化すべく、機構内のナレッジマネジメントを推進するとともに、事業部門と研究所の協働体制を強化し、研究成果の事業への反映に努めました。さらに、事業や研究成果の発信を通じて、「見える化」を進めました。

(5) 公正かつ効率的な組織・業務運営に向けて

平成24年度は、機構のミッションの有効かつ効率的な実現を目指して内部統制機能の強化にも取り組みました。

事業実施上の重点課題やニーズの変化に応じた組織体制の改編については、中小企業等海外展開支援事業受託のための本部体制の改編や、復興の進む南スーダンの拠点整備や民主化が進むミャンマーの拠点機能の強化など、ニーズに応じた体制整備や現場機能の強化に迅速に取り組みました。国内拠点については、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月閣議決定）に基づく整理統合を着実に実行しつつ、地域の多様な関係者との連携強化に努めて、国内拠点の利用拡大につなげました。

契約の競争性・透明性の向上にも努力し、コンサルタント等契約に関する新積算基準の導入・公開、競争性・公正性向上に向けた取組のモニタリング体制の整備、コンサルタント等契約にかかる外部審査制度の本格導入なども進めました。

経費の効率化については、一般管理費及び業務経費（特別業務費及び特殊要因を除く。）の合計について、中期計画に掲げる前年度予算比1.4%以上の効率化を達成しました。

2. 基本情報

(1) 法人の概要

①法人の目的

独立行政法人国際協力機構は、開発途上にある海外の地域（以下「開発途上地域」という。）に対する技術協力の実施、有償及び無償の資金供与による協力の実施並びに開発途上地域の住民を対象とする国民等の協力活動の促進に必要な業務を行い、中南米地域等への移住者の定着に必要な業務を行い、並びに開発途上地域等における大規模な災害に対する緊急援助の実施に必要な業務を行い、もってこれらの地域の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的としております。

②業務内容

当法人は、独立行政法人国際協力機構法第3条の目的を達成するため以下の業務を行います。

- ア) 技術協力
 - ・ 研修員受入
 - ・ 専門家派遣
 - ・ 機材供与
 - ・ 技術協力センター設置・運営
 - ・ 開発計画に関する基礎的調査
- イ) 有償資金協力
 - ・ 円借款
 - ・ 海外投融資
- ウ) 無償資金協力
- エ) 国民等の協力活動の促進
- オ) 移住者に対する援助及び指導等
- カ) 大規模な災害に対する緊急援助
- キ) 人員の養成及び確保
- ク) 調査・研究
- ケ) 附帯業務
- コ) 受託業務

③沿革

- 昭和49年8月 国際協力事業団として設立
- 平成15年10月 独立行政法人国際協力機構として設立
- 平成20年10月 旧国際協力銀行（JBIC）の海外経済協力業務及び外務省の無償資金協力業務（外交政策の遂行上の必要から外務省が引き続き直接実施するものを除く）を承継

④設立根拠法

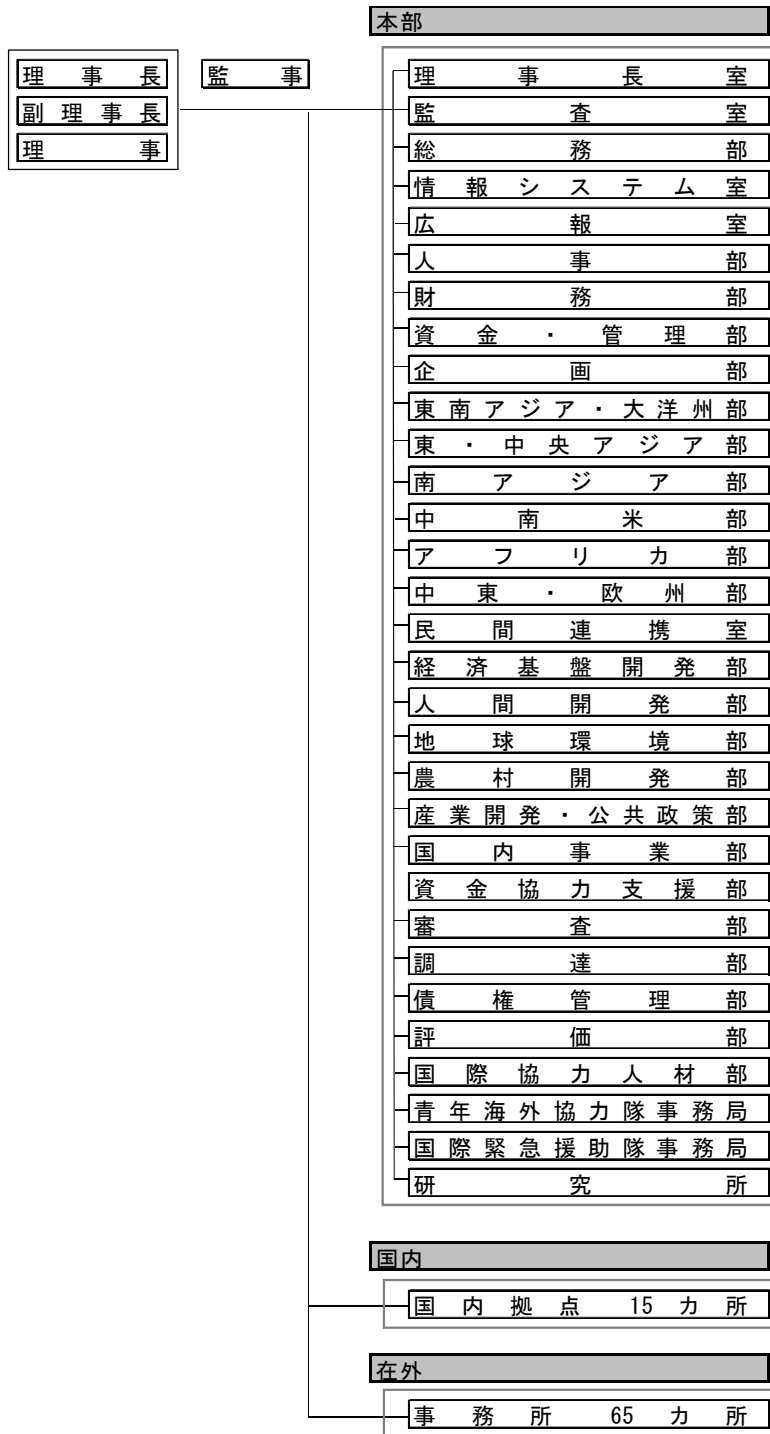
独立行政法人国際協力機構法（平成14年法律第136号）

⑤主務大臣

外務大臣

財務大臣

⑥組織図



(2) 本部等の住所

本部（麹町）：東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
市ヶ谷ビル：東京都新宿区市谷本村町10-5
北海道国際センター（札幌）：北海道札幌市白石区本通16南4-25
北海道国際センター（帯広）：北海道帯広市西20条南6-1-2
筑波国際センター：茨城県つくば市高野台3-6
東京国際センター：東京都渋谷区西原2-49-5
横浜国際センター：神奈川県横浜市中区新港2-3-1
中部国際センター：愛知県名古屋市中村区平池町4-60-7
関西国際センター：兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
中国国際センター：広島県東広島市鏡山3-3-1
九州国際センター：福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
沖縄国際センター：沖縄県浦添市字前田1143-1
東北支部：宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル15階
北陸支部：石川県金沢市本町1-5-2 リファール(オフィス棟)4階
四国支部：香川県高松市番町1-1-5 ニッセイ高松ビル7階
二本松青年海外協力隊訓練所：福島県二本松市永田字長坂4-2
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所：長野県駒ヶ根市赤穂15
インドネシア事務所：インドネシア ジャカルタ
マレーシア事務所：マレーシア クアラルンプール
フィリピン事務所：フィリピン マニラ
タイ事務所：タイ バンコク
カンボジア事務所：カンボジア プノンペン
ラオス事務所：ラオス ビエンチャン
東ティモール事務所：東ティモール デイリ
ベトナム事務所：ベトナム ハノイ
ミャンマー事務所：ミャンマー ヤンゴン
中華人民共和国事務所：中華人民共和国 北京
モンゴル事務所：モンゴル ウランバートル
ブータン事務所：ブータン ティンプー
バングラデシュ事務所：バングラデシュ ダッカ
インド事務所：インド ニューデリー
ネパール事務所：ネパール カトマンズ
パキスタン事務所：パキスタン イスラマバード
スリランカ事務所：スリランカ コロンボ
アフガニスタン事務所：アフガニスタン カブール
キルギス事務所：キルギス ビシュケク
ウズベキスタン事務所：ウズベキスタン タシケント
フィジー事務所：フィジー スバ
パプアニューギニア事務所：パプアニューギニア ポートモレスビー
ドミニカ共和国事務所：ドミニカ共和国 サントドミンゴ
エルサルバドル事務所：エルサルバドル サンサルバドル

グアテマラ事務所：グアテマラ グアテマラ・シティ
ホンジュラス事務所：ホンジュラス テグシガルパ
メキシコ事務所：メキシコ メキシコ
ニカラグア事務所：ニカラグア マナグア
アルゼンチン事務所：アルゼンチン ブエノスアイレス
ボリビア事務所：ボリビア ラパス
ブラジル事務所：ブラジル ブラジリア
パラグアイ事務所：パラグアイ アスンシオン
ペルー事務所：ペルー リマ
アメリカ合衆国事務所：アメリカ合衆国 ワシントン
イラン事務所：イラン テヘラン
イラク事務所：イラク バグダッド
パレスチナ事務所：パレスチナ ガザ
ヨルダン事務所：ヨルダン アンマン
シリア事務所：シリア ダマスカス
エジプト事務所：エジプト カイロ
モロッコ事務所：モロッコ ラバト
チュニジア事務所：チュニジア チュニス
スーダン事務所：スーダン ハルツーム
エチオピア事務所：エチオピア アディスアベバ
ガーナ事務所：ガーナ アクラ
ケニア事務所：ケニア ナイロビ
マラウイ事務所：マラウイ リロングウェ
ナイジェリア事務所：ナイジェリア アブジャ
南アフリカ共和国事務所：南アフリカ共和国 プレトリア
ウガンダ事務所：ウガンダ カンパラ
タンザニア事務所：タンザニア ダルエスサラーム
ザンビア事務所：ザンビア ルサカ
ブルキナファソ事務所：ブルキナファソ ワガドゥガー
カメルーン事務所：カメルーン ヤウンデ
コートジボワール事務所：コートジボワール アビジャン
マダガスカル事務所：マダガスカル アンタナナリボ
モザンビーク事務所：モザンビーク マプト
ルワンダ事務所：ルワンダ キガリ
セネガル事務所：セネガル ダカール
コンゴ民主共和国事務所：コンゴ民主共和国 キンシャサ
南スーダン事務所：南スーダン ジュバ
トルコ事務所：トルコ アンカラ
バルカン事務所：セルビア ベオグラード
フランス事務所：フランス パリ
英国事務所：英国 ロンドン

(3) 資本金の状況

(単位：百万円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金（一般勘定）	79,986	-	12,707	67,279
政府出資金（有償勘定）	7,664,456	50,342	-	7,714,798
資本金合計	7,744,442	50,342	12,707	7,782,077

(4) 役員 of 状況

(平成25年3月31日現在)

役職	氏名	任期	担当	経歴
理事長	田中明彦	自 平成24年4月1日 至 平成27年9月30日		昭和59年4月～平成2年3月 東京大学教養学部助教授 平成21年4月～平成23年3月 東京大学理事・副学長 平成23年4月～平成24年3月 東京大学副学長
副理事長	堂道秀明	自 平成24年4月25日 至 平成28年4月24日		昭和47年4月 外務省入省 平成15年8月 中東アフリカ局長 平成23年2月 特命全権大使経済外交担当
理事	小寺清	自 平成22年4月1日 至 平成25年9月30日 (再任)	総務部（金融リスク管理担当審議役が掌理する事務） 財務部 資金・管理部 企画部（国際開発金融機関との援助協調） 東・中央アジア部 人間開発部 調達部	昭和49年4月 大蔵省入省 平成17年10月 財務省副財務官 平成18年2月 世界銀行・国際通貨基金 合同開発委員会事務局長 (兼世界銀行副官房長)
理事	市川雅一	自 平成23年8月1日 至 平成25年9月30日 (再任)	企画部（中小企業支援担当特命審議役が掌理する事務） 中東・欧州部 民間連携室 産業開発・公共政策部 国際緊急援助隊事務局	昭和58年4月 通商産業省入省 平成22年4月 経済産業省大臣官房審議官
理事	黒川恒男	自 平成23年9月1日 至 平成25年9月30日 (再任)	広報室 アフリカ部 農村開発部 国内事業部 青年海外協力隊事務局	昭和54年9月 国際協力事業団入団 平成20年9月 独立行政法人国際協力機構 理事長室長

理事	渡邊正人	自 平成23年9月1日 至 平成25年9月30日 (再任)	総務部 (金融リスク管理担当審議役が掌理する事務を除く) 情報システム室 人事部 (労務、福利厚生及び人材開発除く) ナレッジマネジメント担当特命審議役が掌理する事務 企画部 (国際開発金融機関との援助協調及び中小企業支援担当特命審議役が掌理する事務を除く) 資金協力支援部 審査部 評価部	昭和55年4月 外務省入省 平成19年11月 外務省大臣官房参事官兼 国際協力局 平成21年7月 独立行政法人国際協力機構 総務部長
理事	荒川博人	自 平成24年4月20日 至 平成26年9月30日 (再任)	人事部 (人材開発) 東南アジア・大洋州部 地球環境部 債権管理部	昭和51年4月 海外経済協力基金採用 平成20年10月 独立行政法人国際協力機構 上級審議役
理事	黒柳俊之	自 平成24年7月1日 至 平成25年9月30日	人事部 (労務及び福利厚生) 南アジア部 中南米部 経済基盤開発部 国際協力人材部	昭和53年4月 国際協力事業団採用 平成22年1月 独立行政法人国際協力機構 人事部長
監事	伊藤隆文	自 平成23年10月1日 至 平成25年9月30日		昭和53年4月 国際協力事業団入団 平成20年10月 独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局長
監事	黒川肇	自 平成23年10月1日 至 平成25年9月30日		昭和57年10月 デロイト・ハスキングス・アンド・ゼルズ公認会計士共同事務所入所 平成22年10月 有限責任監査法人トーマツ 東京事務所パブリックセクター部マネージャー

なお、独立行政法人国際協力機構法第7条に基づく役員の数及び同法第9条に基づく役員の任期は次のとおりです。

役職	定数	任期
理事長	1人	4年 (再任されることができる)
副理事長	1人 (置くことができる)	4年 (再任されることができる)
理事	8人以内	2年 (再任されることができる)
監事	3人	2年 (再任されることができる)

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成24年度末において1,842人（前期末比15人増加）であり、平均年齢は41.29歳（前期末41.00歳）となっています。このうち、国等からの出向者は35人です。

3. 簡潔に要約された財務諸表

(1) 貸借対照表

http://www.jica.go.jp/disc/settle/h24/ku57pq00001f7tzd-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産		流動負債	
貸付金	11,020,269	1年以内償還予定財政融資 資金借入金	317,109
貸倒引当金(△)	△ 140,847	その他	69,698
その他	131,651	固定負債	
固定資産		債券	260,000
有形固定資産	9,035	財政融資資金借入金	1,662,561
無形固定資産	0	その他	8,252
投資その他の資産		負債合計	2,317,620
破産債権、再生債権、更生債権 その他これらに準ずる債権	72,617	純資産の部	
貸倒引当金(△)	△ 40,577	資本金	
その他	77,352	政府出資金	7,714,798
		利益剰余金	
		準備金	1,036,291
		その他	93,497
		評価・換算差額等	△ 32,708
		純資産合計	8,811,879
資産合計	11,129,499	負債純資産合計	11,129,499

(2) 損益計算書

http://www.jica.go.jp/disc/settle/h24/ku57pq00001f7tzd-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

	金額
経常費用 (A)	128,703
有償資金協力業務関係費	128,703
借入金利息	31,348
金利スワップ支払利息	8,297
業務委託費	21,031
物件費	12,795
貸倒引当金繰入	25,278
偶発損失引当金繰入	20,196
その他	9,759
経常収益 (B)	222,202
有償資金協力業務収入	221,549
貸付金利息	184,958
受取配当金	27,520
その他	9,071
その他	653
臨時損失 (C)	2
臨時利益 (D)	0
当期総利益 (B-A-C+D)	93,497

(3) キャッシュ・フロー計算書 http://www.iica.go.jp/disc/settle/h24/ku57pg00001f7tzd-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

	金額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	△ 98,452
貸付による支出	△ 665,481
財政融資資金借入金の返済による支出	△ 323,204
貸付金の回収による収入	629,557
財政融資資金借入による収入	82,900
債券の発行による収入	59,646
貸付金利息収入	189,588
その他収入・支出	△ 71,458
II 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	32,144
III 財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	50,248
IV 資金減少額 (D=A+B+C)	△ 16,060
V 資金期首残高 (E)	74,880
VI 資金期末残高 (F=E+D)	58,820

(4) 行政サービス実施コスト計算書 http://www.iica.go.jp/disc/settle/h24/ku57pg00001f7tzd-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

	金額
I 業務費用	△ 93,497
損益計算書上の費用	128,705
(控除) 自己収入等	△ 222,202
II 引当外退職給付増加見積額	6
III 機会費用	43,062
IV 行政サービス実施コスト	△ 50,430

注： 独立行政法人国際協力機構法第28条に基づく財務諸表は、財産目録、貸借対照表、損益計算書ですが、独立行政法人会計基準第42にあわせ、貸借対照表、損益計算書、及び任意に作成するキャッシュ・フロー計算書、行政サービス実施コスト計算書を掲載しております。

(参考) 財務諸表の科目の説明 (主なもの)

(1) 貸借対照表

- 貸付金 : 有償資金協力業務の貸付金
- 貸倒引当金 : 貸付金等に係る引当金
- 有形固定資産 : 土地、建物、機械装置、車両、工具等独立行政法人が長期にわたって使用または利用する有形の固定資産
- 無形固定資産 : 商標権
- 投資その他の資産 : 投資有価証券、関係会社株式、破産債権、再生債権、更生債権その他これらに準ずる債権、差入保証金等
- 債券 : 事業資金調達のため発行する債券
- 財政融資資金借入金 : 財政融資資金からの借入金
- 政府出資金 : 国からの出資金であり、独立行政法人の財産的基礎を構成するもの
- 準備金 : 有償資金協力勘定の利益にかかる積立金
- 評価・換算差額等 : ヘッジ会計、投資有価証券の評価等により発生する評価差額金

(2) 損益計算書

- 有償資金協力業務関係費 : 有償資金協力業務に要した費用
- 有償資金協力業務収入 : 有償資金協力業務の貸付金の利息の受入等
- 臨時損失 : 固定資産の除却損等
- 臨時利益 : 固定資産の売却益

(3) キャッシュ・フロー計算書

- 業務活動によるキャッシュ・フロー : 独立行政法人の通常の業務の実施に係る資金の状態を表し、サービスの提供等による収入、サービスの購入等による支出、人件費支出等が該当
- 投資活動によるキャッシュ・フロー : 将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、固定資産や有価証券の取得・売却等による収入・支出が該当
- 財務活動によるキャッシュ・フロー : 政府出資の受入による収入等が該当

(4) 行政サービス実施コスト計算書

- 業務費用 : 独立行政法人が実施する行政サービスのコストのうち、独立行政法人の損益計算書に計上される費用
- 引当外退職給付増加見積額 : 公務員からの出向職員に係る退職給付引当金増加見積額 (損益計算書には計上していませんが、仮に引き当てた場合に計上したであろう退職給付引当金見積額を行政サービス実施コスト計算書に注記しております)
- 機会費用 : 国又は地方公共団体の財産を無償又は減額された使用料により賃貸した場合の本来負担すべき金額等が該当

4. 財務情報

(1) 財務諸表の概況

①経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フロー等の主要な財務データの経年比較・分析（内容・増減理由）

(経常費用)

平成24年度の経常費用は128,703百万円と、前年度比4,146百万円増（3.3%増）となっております。これは、金利スワップ支払利息が前年度比2,171百万円増（35.4%増）となったことが主な要因です。

(経常収益)

平成24年度の経常収益は222,202百万円と、前年度比2,675百万円増（1.2%増）となっております。これは、受取配当金が前年度比7,556百万円増（37.8%増）となったことが主な要因です。

(当期総損益)

上記経常損益の状況に加えて臨時損益として固定資産除却損等2百万円を計上した結果、平成24年度の当期総利益は93,497百万円と、前年度比571百万円減（0.6%減）となっております。

(資産)

平成24年度末現在の資産合計は11,129,499百万円となっており、前年度末比19,146百万円減となっております。これは関係会社株式の減少20,838百万円（21.4%減）が主な要因です。

(負債)

平成24年度末現在の負債合計は2,317,620百万円となっており、前年度末比138,705百万円減となっております。これは財政融資資金借入金の減少240,304百万円（10.8%減）が主な要因です。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成24年度の業務活動によるキャッシュ・フローは△98,452百万円と、前年度比69,237百万円減（237.0%減）となっております。これは、貸付による支出が55,747百万円増（9.1%増）となったことが主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成24年度の投資活動によるキャッシュ・フローは32,144百万円と、前年度比21,134百万円増（192.0%増）となっております。これは、関係会社株式等の売却等による収入が前年度比21,781百万円増（203.9%増）となったことが主な要因です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成24年度の財務活動によるキャッシュ・フローは50,248百万円と、前年度比8,556百万円増（20.5%増）となっております。これは、政府出資の受入による収入が8,442百万円増（20.2%増）となったことが主な要因です。

表 主要な財務データの経年比較

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	37,154	77,888	82,135	124,557	128,703
経常収益	130,102	266,660	252,049	219,527	222,202
当期総利益	92,982	188,666	162,972	94,068	93,497
資産	11,037,218	11,133,025	11,193,799	11,148,645	11,129,499
負債	3,055,868	2,835,694	2,624,731	2,456,324	2,317,620
利益剰余金（又は繰越欠損金）	590,585	779,252	942,223	1,036,291	1,129,789
業務活動によるキャッシュ・フロー	△64,305	△166,702	△67,754	△29,215	△98,452
投資活動によるキャッシュ・フロー	213	31,038	222	11,010	32,144
財務活動によるキャッシュ・フロー	83,228	127,152	104,234	41,692	50,248
資金期末残高	23,203	14,691	51,393	74,880	58,820

注：有償資金協力勘定は、平成20年10月1日に旧国際協力銀行より承継されたため、20年度の貸借対照表以外の項目については、平成20年10月1日～平成21年3月31日の期間における発生額を計上しております。

②セグメント事業損益の経年比較・分析（内容・増減理由）

該当なし

③セグメント総資産の経年比較・分析（内容・増減理由）

該当なし

④目的積立金の申請、取崩内容等

該当なし

⑤行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析（内容・増減理由）

平成24年度の行政サービス実施コストは△50,430百万円と、前年度比31,662百万円減（168.7%減）となっております。これは、機会費用が前年度比32,227百万円減（42.8%減）となったことが主な要因です。

表 行政サービス実施コストの経年比較

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
業務費用	△86,198	△181,666	△162,972	△94,068	△93,497
うち損益計算書上の費用	37,154	78,018	89,078	125,461	128,705
うち自己収入等	△123,352	△259,684	△252,050	△219,529	△222,202
引当外退職給付増加見積額	10	6	6	12	6
機会費用	49,240	103,990	95,008	75,289	43,062
行政サービス実施コスト	△36,949	△77,669	△67,958	△18,767	△50,430

注：有償資金協力勘定は、平成20年10月1日に旧国際協力銀行より承継されたため、20年度については、平成20年10月1日～平成21年3月31日の期間における発生額を計上しております。

(2) 施設等投資の状況（重要なもの）

①当年度中に完成した主要施設等

無し

②当年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

無し

③当年度中に処分した主要施設等

無し

(3) 予算・決算の概況

(単位：百万円)

区分	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
収入	122,336	126,586	237,186	246,975	220,425	215,907	202,317	215,024	195,789	219,935	
事業益金	110,664	119,263	217,300	222,135	210,965	212,520	196,276	212,494	188,676	210,640	
事業益金	110,664	119,263	217,300	222,135	210,965	212,520	196,276	212,494	188,676	210,640	
貸付金利息	107,449	109,696	215,442	212,444	208,790	204,916	193,749	192,529	186,373	183,123	注1
配当金収入	3,215	9,567	1,859	9,691	2,175	7,604	2,528	19,964	2,303	27,516	注2
雑収入	11,672	7,324	19,885	24,840	9,460	3,387	6,040	2,530	7,113	9,295	
一般会計より受入	6,750	6,750	7,000	7,000	-	-	-	-	-	-	
運用収入	0	31	40	46	12	26	9	35	8	38	注3
雑収入	4,922	543	12,846	17,794	9,448	3,361	6,031	2,495	7,105	9,257	
労働保険料被保険者負担金	9	6	17	10	17	15	17	15	18	12	
雑収入	4,913	537	12,829	17,784	9,431	3,346	6,014	2,480	7,087	9,245	注4
支出	57,064	37,966	113,172	79,661	105,267	80,728	104,019	84,574	105,732	81,682	
事業損金	56,993	37,966	113,031	79,661	105,127	80,728	103,879	84,574	105,592	81,682	注5
役員給	22	21	45	41	44	40	43	32	36	28	
職員基本給	807	792	1,617	1,588	1,616	1,614	1,651	1,635	1,703	1,555	
職員諸手当	712	694	1,389	1,262	1,319	1,229	1,240	1,240	1,258	1,168	
超過勤務手当	65	61	129	122	124	121	129	110	135	126	
退職者給与	38	33	76	61	67	50	61	59	60	53	
退職手当	203	136	405	220	322	227	294	293	287	236	
諸支出金	234	212	488	445	482	461	487	463	531	475	
旅費	646	409	1,101	1,100	1,097	1,095	1,102	1,102	1,102	1,100	
業務諸費	7,801	4,136	12,865	10,705	12,753	11,215	12,969	10,839	13,044	11,689	
交際費	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	
税金	42	13	123	31	126	110	126	120	124	86	
業務委託費	9,532	4,685	18,273	14,680	20,219	16,733	22,962	22,501	23,224	20,058	
支払利息	36,711	26,631	76,247	49,158	66,222	47,535	62,340	45,835	63,481	44,754	
債券発行諸費	179	142	272	248	734	297	473	346	605	354	
予備費	70	-	141	-	141	-	141	-	141	-	

注1 貸付金が予定より少なかったこと等のため。

注2 配当金が予定より多かったため。

注3 余裕金の運用による預け金利息の収入が予定より多かったこと等のため。

注4 投資有価証券等処分の収入があったこと等のため。

注5 不用額を生じたのは、借入金の残高及び支払雑利息が予定を下回ったこと等により、支払利息を要することが少なかったこと等のため。

5. 事業の説明

(1) 財源構造

有償資金協力業務の財源構造は以下の通りとなっております。

借入先及び借入額の状況 (単位:百万円)

借入先及び借入額の状況	平成24年度	
	当初計画	実績
財政融資資金借入金	427,000	82,900
債券発行	80,000	60,000
回収金等によるその他自己資金	316,100	472,513
政府一般会計からの出資金	56,900	50,342
合計	880,000	665,755

事業計画及び実績推移 (単位:百万円)

事業計画及び実績推移	平成24年度	
	当初計画	実績
円借款	879,700	665,481
海外投融資	300	274
合計	880,000	665,755

(2) 業務の業況

平成24年度の有償資金協力業務の実績は、円借款の出融資に係る承諾件数が55件、同承諾額が12,229億円、海外投融資の出融資に係る承諾は1件、同承諾額は38億円となりました。また、出融資に係る実行額は円借款が8,644億円、海外投融資が3億円、円借款と海外投融資を合わせた残高は11兆4,150億円となりました。

平成24年度の承諾状況を地域別にみると、アジア地域への承諾額は10,332億円、地域別シェアは84.5%と、前年度に比べ増加しました（前年度7,691億円、81.0%）。インドにおいては過去最大となる3,493億円（前年度2,669億円）を承諾した他、ミャンマーに1,989億円（前年度なし）、バングラデシュに過去最大となる1,664億円（前年度600億円）を承諾しました。バングラデシュの間では「ベラマラ・コンバインドサイクル火力発電所建設事業」に係る円借款契約（415億円）に調印し、電力需要の逼迫するバングラデシュ西部地域において、高効率のコンバインドサイクル火力発電所を建設することにより、電力需要増への対応及び安定的な電力供給を図り、対象地域の産業競争力の強化、民生の向上に寄与することを目指しています。

また、アフリカ地域への承諾額は472億円、地域別シェアは3.9%と、前年度に比べ地域別シェアの拡大が顕著となりました（前年度161億円、1.7%）。ボツワナ及びザンビアとの間では「カズングラ橋建設事業」に係る円借款契約（ボツワナ：87億円、ザンビア：29億円）に調印し、ボツワナ・ザンビア両国国境に位置するザンベジ川にて、橋梁、アクセス道路及び国境管理施設の建設を開始しました。カズングラ橋は、南アフリカ共和国・ダーバンからコンゴ民主共和国・ルブンバシを結ぶ南北回廊上の通過点に位置しており、本事業を通じて輸送の効率化を図ることで、南北回廊周辺地域における物流の改善及び経済開発の促進が期待されます。

一方、部門別承諾比率で見ると、運輸（41.8%）、商品借款等（20.6%）、社会的サービス（15.9%）、電力・ガス（15.1%）の順で承諾額が多くなっています。

運輸分野では、インドとの間で「貨物専用鉄道建設事業（フェーズ2）（Ⅱ）」にかかる円借款契約（1,361億円）に調印しました。本事業の実施により、貨物専用鉄道の計画区間であるデリー～ムンバイ間の一部に新線を建設し、今後高い成長率が見込まれる貨物輸送需要への対応や物流ネットワークの効率化を図ることを目指しています。

商品借款としては、ミャンマーとの間で「社会経済開発支援借款」に係る円借款契約（1,989億円）に調印しました。新政権発足以降のミャンマー政府が進めるマクロ経済運営・開発政策、社会セクター（教育・保健）及びガバナンス分野における改革を支援することにより、改革の持続及び我が国との政策対話の促進を通じた同分野の改善を図り、ミャンマー経済の安定に寄与することを目的としています。

社会的サービス分野では、保健・医療に関する支援として、イラクとの間で「保健セクター復興事業」に係る円借款契約（102億円）に調印しました。本事業は、不足病床数や外来患者数等の観点から優先度が高い中核総合病院を整備するものです。本事業を通じ、保健システムの強化や保健サービスの地域格差の是正を図り、同国の健康改善や社会経済開発への寄与を目指しています。

気候変動対策支援としては、ブラジルとの間で「ベレン都市圏幹線バスシステム事業」に係る円借款契約（164億円）に調印しました。本事業は、幹線バス交通システムの整備により交通渋滞及び大気汚染の緩和に貢献するものです。また、スリランカの間では「大コロンボ圏送配電損失率改善事業」の円借款契約（159億円）に調印し、送配電網の整備により送配電損失率改善等を図り、経済発展や温室効果ガス削減に資することを目指しています。さらに、ベトナムの間では、昨年度に引き続き、ベトナム政府の気候変動対策を政策対話等を通じて支援する「気候変動対策支援プログラム（Ⅲ）」（150億円）に調印した他、モロッコの間では、下水処理の過程で発生する温室効果ガスの排出削減を図る「下水道整備事業（Ⅲ）」（108億円）、インドネシアの間では、再生可能エネルギー開発やエネルギーの高効率利用等により気候変動の緩和に寄与する「地熱開発促進プログラム（トゥレフ地熱発電事業（E/S））」（51億円）、「インドラマユ石炭火力発電事業（E/S）」（17億円）に調印しました。

表1 平成24年度 業務実績

（単位：百万円）

承諾	1,226,694
実行	864,637
回収	822,049
残高	11,415,025

注： 残高については債権管理上の実績であり、独法会計基準に基づく決算値とは計上方法が異なります。

表2 平成24年度 地域別・金融目的別承諾額

(単位：百万円)

地域別	金融目的	円借款		海外投融資		合計	
		金額	件数	金額	件数	金額	件数
アジア		1,033,218	38	3,786	1	1,037,004	39
	東アジア	-	0	-	0	-	0
	東南アジア	461,347	19	3,786	1	465,133	20
	南アジア	571,871	19	-	0	571,871	19
	中央アジア・コーカサス	-	0	-	0	-	0
大洋州		4,945	1	-	0	4,945	1
中南米		47,499	6	-	0	47,499	6
中東		90,054	6	-	0	90,054	6
アフリカ		47,192	4	-	0	47,192	4
ヨーロッパ		-	0	-	0	-	0
国際機関等		-	0	-	0	-	0
合計		1,222,908	55	3,786	1	1,226,694	56